

花草木

【トウワタ】

トウワタ（唐綿；学名：Asclepias curassavica）は、キョウチクトウ科の多年草です。原産地は南アメリカで寒さに弱いため、日本では一年草として道端や空き地に自生しています。日本には江戸時代・天保年間に渡来したとされ、和名の「トウワタ」は種子の冠毛に由来し、ツルワタとも呼ばれるようです。

花の時期は6月～10月で、茎の上部の葉の付け根から花序を出し、多数の花を咲かせます。

一つの花序には10～20個の花が付きます。

茎はあまり分枝せず直立し、草丈50～100cmに成長します。

葉茎を傷つけると白い乳液が出ます。肌が弱いとかぶれることがあるので、剪定の時などは手袋をして、肌に乳液が直接付着しないように注意する必要があります。



空き地に咲いていたトウワタの花（和歌山県）

花言葉・ 私を行かせて 心変わり

我が署のスタッフ 和歌山森林管理署

安田 真菜 (やすだ まな) (R2年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループの育成担当として造林事業の請負発注に携わっているほか、ふれあい業務やノウサギによる被害対策にも取り組んでいます。日々こなす担当業務でも、まだまだ学びが多いなと感じています。

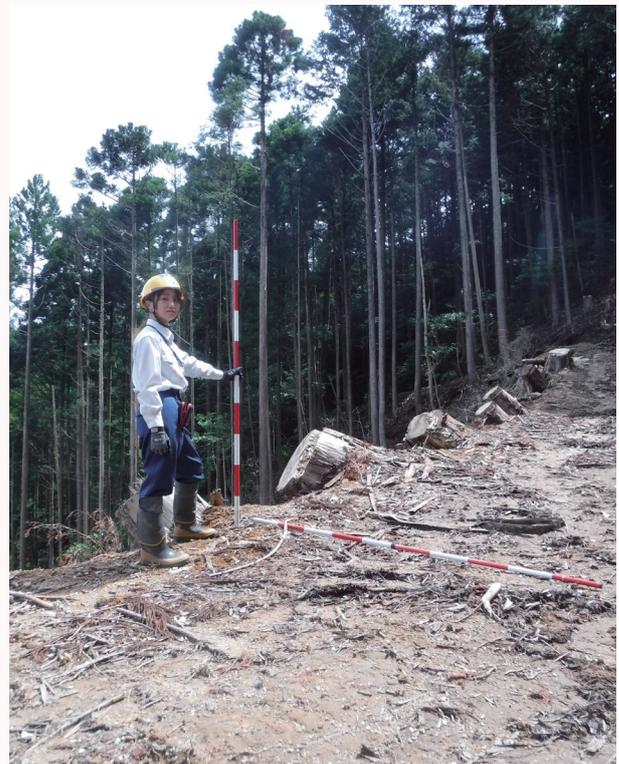
【職場の雰囲気は？】

日常のとりとめないことを、なんとなく話せるような和やかな雰囲気です。さらに、若手職員の挑戦したいことを、担当業務に縛られず後押ししてくれる雰囲気があるので、意欲をもって業務に取り組めます。

【林野庁の魅力は？】

携帯電話が圏外になるような山奥に仕事として赴くことも多いので、山や森林が好きであれば、それを公務員として体験できるのが魅力だと思います。

現場の方々には敵いませんが、日本の森林を専門的な考えや見方で捉えて、これからを考える力を持つことができると感じます。



監督業務の様子

森林事務所等紹介

かけ 加計森林事務所 (広島森林管理署)

森林官 中岸 大起 (なかぎし だいき)

加計森林事務所は、広島県の北西部に位置し、安芸太田町と北広島町のほか、廿日市市の一部（旧吉和村）の国有林及び官行造林地を管理しています。

県内最高峰の恐羅漢山（標高 1,346 m）をはじめ有数の山岳地帯であり、ブナなどの原生林も多く残っていることから、管内国有林の多くは西中国山地国立公園に指定されており、山深くにはツキノワグマも生息しています。

国有林の山麓部には本格的なスキー場やキャンプ場があり、夏は登山やキャンプ、冬はスキーと季節を問わずレジャーを楽しめる環境となっています。ぜひ一度お越しください。

また、登山スポットとして人気のある十方山（標高 1,328 m）の山頂にはチマキサザが一面に広がり、文字どおり瀬戸内海から日本海まで 360 度の大パノラマを一望することができます。

私は、森林官として森林と人とが共存できる環境を守るため、日々業務に励んでいます。



なかのこう
中ノ甲国有林 (ブナ原生林)



十方山 (山頂付近の全景) ※立岩山から撮影



よこのこう
横川国有林 (スキー場)



横川国有林 (スキー場)

シリーズ『国有林 最前線！』

～素材の販売単価向上に向けた取組～

岡山森林管理署

岡山森林管理署では、令和6年度、25,230m³の素材生産・販売を予定しています。素材（丸太）の販売に当たっては、最新の市況動向をもとに、適切な採材を行うことによって、販売単価を向上させ、林産物収入の確保を図ることが求められています。

そこで当署では、令和5年度から、素材生産事業箇所において、素材生産事業者、木材市場、森林管理署の三者による採材の勉強会を実施しています。令和5年度は、計6回の勉強会を開催し、延べ84人（うち素材生産事業者から33名）が参加しました。



事前学習



木材市場からの説明

令和6年度においても、すでに3回の勉強会を実施しており、6月10日（月）には、さんこうやま三光山国有林（岡山県新見市）で勉強会を開催し、素材生産事業者から9名、木材市場か

ら2名、署から8名が参加しました。

現地での勉強会に先立ち、署の職員は、スギ、ヒノキ等の主な用途や性質、径級別の木取りや長級別の用途等、採材に関する基礎知識について事前学習を行いました。

現地での勉強会では、木材市場関係者から最新の市況動向の説明を受けた後、スギ試供木2本、ヒノキ試



ヒノキ試供木の採材検討



意見交換中

供木3本について、素材生産事業者が販売単価の向上を狙った採材の検討を行い、検討結果を発表しました。発表内容について木材市場関係者からアドバイスを受けた後、プロセスによる採材を実

演していただきました。また、競り売りを行う木材市場向けの素材とチップ工場等へ直送するシステム販売材の仕分け方法についても素材生産事業者と打合せを行いました。

続いて行った木材市場関係者を交えた意見交換では、ヒノキの場合、径級が15cm～18cmの直材ならば3m、径級が18cm以上ならば4mで採材すれば販売単価が高くなることや曲がり材の許容範囲などを確認しました。

岡山森林管理署では、引き続き、三者による情報共有を緊密に行いつつ、素材の販売単価向上に向けた取組に努めることとしています。